

番組審議会
第699回

2025年12月

■ 審議会の構成 委員総数 10名

委員長 音好宏
副委員長 江澤佐知子
委員 川喜田尚 田中東子
谷本歩実 洞口依子
長嶋有二 関辰郎
水無田気流 目加田説子

TBSテレビ 龍宝社長
合田専務
井上取締役
三城コンテンツ戦略局長
藤田編成考查局長
浜崎カスタマーサクセス室長
満田番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

- (1) 今年のTBSテレビの番組全般、及び放送界について
- (2) その他

2. 事務局報告事項

- (1) 視聴者からの声について
- (2) 次回審議会について

【委員の主な意見】

◇2025年印象に残ったTBSテレビの番組

□「報道特集」

- ・兵庫県知事選や立花孝志氏を扱った一連の報道。「誤りは誤り」と声を上げ続けることの重要性を番組で訴えていた。同一テーマを繰り返し取り扱ってきたことに敬意を表したい。
- ・ネットで様々な誹謗中傷、番組関係者への個人攻撃など受けながらも、事実に基づいた取材・報道を続けたことに関係者の矜持を感じた。

□「戦後80年プロジェクト つなぐ、つながる」

- ・記憶に残る企画だった。JNN系列局の記者やディレクターが丁寧に取材し続けた成果だと推察される。長く広く視聴を呼びかけたい番組ばかりだった。

□「ドキュメンタリー『解放区』」

- ・他の報道番組で扱ったレポートを骨太の作品に発展。現場主義に立脚して、積極的、継続的に取材・報道する姿勢を評価したい。

□日曜劇場「御上先生」

- ・学園全体の俯瞰と個々の登場人物が交互に映される演出などは、個人が埋め込まれたこの社会のあり方を彷彿とさせるものがあった。

□火曜ドラマ「じゃあ、あんたが作ってみろよ」

- ・依然として、家事育児などの負担は女性偏重で、旧来の女性らしさが求められるのは変わらず…という現状に一石を投じるドラマだった。

□金曜ドラマ「フェイクマミー」

- ・「母親のなりすまし」という切り口から、女性のキャリア、家族愛、葛藤や成長など胸の内が赤裸々に語られており、周囲からも共感する声が多かった。
- ・8歳の子どもが妻とともに、楽しんで、泣きながら見ていた。子どもが関わるドラマは子どもも感情移入しやすいようだ。

□ ドラマ全般

- ・近年TBSのドラマはクオリティが高い。コメディでもシリアスでも社会課題、社会問題を織り込みながら、楽しく問題提起をしている。
- ・「御上先生」「対岸の家事」「じやあ、あんたが作ってみろよ」など、ドラマならではの表現方法で現代の日本社会に内在する課題を丁寧に描いていた。

□ 「SASUKE」

- ・体力を含めた能力の限界が年々拡張していく摩訶不思議さ。それを紐解く何かを探求したくなるのがこの番組の魅力の一つだと思う。

□ 「東京2025世界陸上」

- ・初めて舞台裏を見て、陸上に興味がない私も様々に感じることができた。
- ・視察を通して、いかにテレビ中継が、臨場感を失わずにリアルタイムで競技を伝えるために工夫されているかを理解することができた。
- ・競技実況に女性アナウンサーを起用するなど、時代にあわせた改革も数多く見て取れた。このような姿勢はぜひ継続してほしい。
- ・日本人アスリートの突出した活躍がない中、社会的現象になるほどの盛り上げを見せたのはTBSが社を挙げて放送に尽力したことが大きいのでは。
- ・日本では地味な存在だった陸上競技の魅力を余すことなく伝えることができた素晴らしい放送だった。スポーツ振興の役割も期待以上に果たしたと思う。

◇ TBSテレビの番組全般、および今後のTBSテレビに望むこと

□ 2025年の参院選等では選挙報道のあり方を見直し、TBSテレビでも公示期間中に選挙関連のニュースをこれまで以上に報じていた。今後も積極的に進めて欲しい。

□ 震災や戦争に関する「つなぐ、つながる」シリーズを通して、テレビの教育的意義を改めて感じている。報道と向き合う真摯な姿勢はぜひ継承してほしい。

- 普遍的な人権や民主主義の価値を維持しつつ、社会の広い層の共感を得るのはますます難しくなると思うが、信頼感ある報道番組を継続制作してほしい。
- 状況や時代に流される傾向をテレビ番組が助長するようではいけない。検証した事実に基づいて多角的視点を提示し、一人一人が立ち止まって考えることを促すような番組づくりを期待したい。
- バラエティ番組では、BPO「放送倫理違反」案件や、収録中の出演者の負傷など、慎重に取り組めば回避できた問題が発生している。バラエティ番組のあり方、内容や制作指針について検討してもよいのではないか。
- 日本人にとってコンプラは大事なルールだと思うが、コンプラに縛られて表現がおおらかではなく、小さくなることは懸念される。

◇テレビ界全般について

- 日本で放送が誕生して100年目の2025年、フジテレビ問題が放送界を揺るがし続けた。この問題を個社の事案として切り捨てる事なく、放送局の社会的信頼を維持・向上させていくことに放送界全体で向き合ってほしい。
- 2025年はSNS等の情報に疑惑を持たざるをえない出来事が相次ぎ、テレビで放送することの意義や価値に光が当たり始めているように思う。テレビ発の情報やエンタメには今後ますます多くの責任と役割が課せられていくのでは。
- 安易にネットを後追いするような番組が増えているように見える。テレビにはテレビならではの「社会の公器」としての役割があるので、これらとは一線を画してほしい。
- テレビ全体に「日本礼賛」番組・コンテンツが増えている印象。時として排他的、自己評価を誤る結果につながるのではと危惧している。

- 次回WBCのテレビ放送予定無しという事態。日本でもユニバーサル・アクセス権の議論が進むことが予想される。
- 地域性を重視した「THE TIME,」の「全国！中高生ニュース」や「モニタリング」の学校潜入企画などを通して家族で会話が弾む。今後も学校教育との連携企画などを通じて、若い世代と家族の絆を深める番組を期待。
- 若い世代が、双方向ではないテレビの特性に一周回って気づいてきている気もある。その「双方向でない」は実はメリットだという考え方をテレビ人も抱いていっていいのかもしれない。何が今メリットなのか考え抜くというか。

*TBSテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。（TBSテレビ番組審議会事務局）